

第2問 微分法・積分法

$$f(x) = 2x^3 + ax^2 - 4ax.$$

$f(x)$ の導関数 $f'(x)$ は

$$f'(x) = \boxed{6}x^2 + \boxed{2}ax - \boxed{4}a$$

である.

$f(x)$ が $x=1$ で極値をとるとき

$$f'(1) = \boxed{0}$$

であり

$$f'(1) = 6 + 2a - 4a = 6 - 2a$$

であるから

$$a = 3$$

である. このとき

$$f(x) = 2x^3 + 3x^2 - 12x$$

$$f'(x) = 6x^2 + 6x - 12 = 6(x+2)(x-1)$$

であるから, $f(x)$ の増減は次のようになる.

x	...	-2	...	1	...
$f'(x)$	+	0	-	0	+
$f(x)$	↗	20	↘	-7	↗

よって, $x=1$ で $f(x)$ は確かに極値をとるから $a = \boxed{3}$ である.

また, $f(x)$ は $x = \boxed{-2}$ において極大値 $\boxed{20}$ をとる.

曲線 C 上の点 O における C の接線 ℓ の傾きは

$$f'(0) = -12$$

であるから, ℓ の方程式は

$$y = \boxed{-12}x$$

である. 曲線 C と直線 ℓ の共有点の x 座標を求めると

$$2x^3 + 3x^2 - 12x = -12x$$

$$2x^2 \left(x + \frac{3}{2} \right) = 0$$

$$x = 0, -\frac{3}{2}$$

であるから, C と ℓ の点 O 以外の共有点 A の座標は

$$\left(\frac{\boxed{-3}}{\boxed{2}}, \boxed{18} \right) \text{ である.}$$

(1) 曲線 C 上の点 T における C の接線の傾きは

$$f'(t)$$

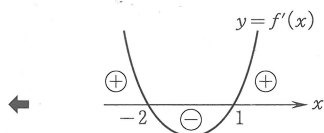
であるから, T における C の接線が ℓ と平行になる条件は,

← 導関数

$$(x^n)' = nx^{n-1} \quad (n=1, 2, 3, \dots),$$

$$(c)' = 0 \quad (c \text{ は定数}).$$

← $6 - 2a = 0.$



$f'(x)$ の符号はグラフを用いると調べやすい.

← 接線の方程式

曲線 $y = f(x)$ 上の点 $(t, f(t))$ における接線の傾きは

$$f'(t)$$

であり, 接線の方程式は

$$y - f(t) = f'(t)(x - t).$$

← $y = -12 \cdot \left(-\frac{3}{2} \right) = 18.$

← $T(t, f(t)).$

$$f'(t) = -12 \text{ より}$$

$$6t^2 + 6t - 12 = -12$$

$$t(t+1) = 0$$

$$t = 0, -1$$

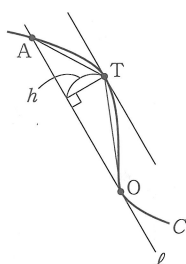
である。これらのうち $-\frac{3}{2} < t < 0$ を満たすのは $t = -1$ であるから、このときの点 T の座標は $(\boxed{-1}, \boxed{13})$ である。

(2) 点 T と直線 ℓ の距離を h とする。 t が $-\frac{3}{2} < t < 0$ の範囲を

動くとき、三角形 OAT の面積は

$$\frac{1}{2} \cdot OA \cdot h = \frac{1}{2} \cdot \sqrt{\left(-\frac{3}{2}\right)^2 + 18^2} \cdot h = \frac{3\sqrt{145}}{4} \cdot h$$

と表され、これが最大となるのは h が最大となるとき、すなわち、点 T における曲線 C の接線が ℓ と平行になるときである。



このときの h は、点 $(-1, 13)$ と直線 $\ell: 12x + y = 0$ の距離であるから

$$h = \frac{|12(-1) + 13|}{\sqrt{12^2 + 1^2}} = \frac{1}{\sqrt{145}}$$

である。よって、三角形 OAT の面積の最大値は

$$\frac{3\sqrt{145}}{4} \cdot \frac{1}{\sqrt{145}} = \frac{\boxed{3}}{\boxed{4}}$$

である。

放物線 $D: y = px^2 + qx + r$ は点 O を通るから

$$r = \boxed{0}$$

であり、 $y = px^2 + qx$ となる。さらに、放物線 D は点 A も通るから

$$18 = p \cdot \left(-\frac{3}{2}\right)^2 + q \cdot \left(-\frac{3}{2}\right)$$

より

$$q = \frac{\boxed{3}}{\boxed{2}}p - \boxed{12}$$

である。よって

$$D: y = px^2 + \left(\frac{3}{2}p - 12\right)x \quad (p > 0)$$

$$\begin{aligned} y &= f(-1) \\ &= 2 \cdot (-1)^3 + 3 \cdot (-1)^2 - 12 \cdot (-1) \\ &= 13. \end{aligned}$$

$$A\left(-\frac{3}{2}, 18\right).$$

← 点と直線の距離

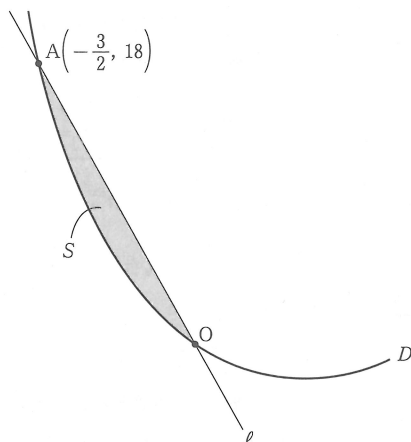
点 (x_0, y_0) と直線 $ax + by + c = 0$ の距離は

$$\frac{|ax_0 + by_0 + c|}{\sqrt{a^2 + b^2}}.$$

$\ell: 12x + y = 0$, $T(-1, 13)$.

$$\leftarrow A\left(-\frac{3}{2}, 18\right).$$

と表される.



直線 ℓ と放物線 D で囲まれた図形の面積 S は

$$\begin{aligned} S &= \int_{-\frac{3}{2}}^0 \left[(-12x) - \left\{ px^2 + \left(\frac{3}{2}p - 12 \right)x \right\} \right] dx \\ &= -p \int_{-\frac{3}{2}}^0 \left(x + \frac{3}{2} \right) x dx \\ &= -p \left[-\frac{1}{6} \left\{ 0 - \left(-\frac{3}{2} \right) \right\}^3 \right] \\ &= \frac{9}{16}p \end{aligned}$$

である. よって, $S = \frac{3}{4}$ を満たす p の値は $\frac{4}{3}$ である.

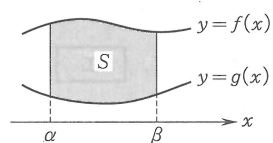
【 $S = \frac{9}{16}p$ を求める別解】

$$\begin{aligned} S &= \int_{-\frac{3}{2}}^0 \left[(-12x) - \left\{ px^2 + \left(\frac{3}{2}p - 12 \right)x \right\} \right] dx \\ &= -p \int_{-\frac{3}{2}}^0 \left(x^2 + \frac{3}{2}x \right) dx \\ &= -p \left[\frac{1}{3}x^3 + \frac{3}{4}x^2 \right]_{-\frac{3}{2}}^0 \\ &= p \left\{ \frac{1}{3} \left(-\frac{3}{2} \right)^3 + \frac{3}{4} \left(-\frac{3}{2} \right)^2 \right\} \\ &= \frac{9}{16}p. \end{aligned}$$

面積

区間 $\alpha \leq x \leq \beta$ においてつねに $g(x) \leq f(x)$ ならば2曲線 $y=f(x)$, $y=g(x)$ および2直線 $x=\alpha$, $x=\beta$ で囲まれた図形の面積 S は

$$S = \int_{\alpha}^{\beta} \{f(x) - g(x)\} dx.$$



$$\begin{aligned} \leftarrow \int_{\alpha}^{\beta} (x-\alpha)(x-\beta) dx \\ = -\frac{1}{6}(\beta-\alpha)^3. \end{aligned}$$

$$\leftarrow \frac{9}{16}p = \frac{3}{4}.$$

$$\begin{aligned} \leftarrow \int x^n dx &= \frac{1}{n+1} x^{n+1} + C \\ (n=0, 1, 2, \dots, C \text{ は積分定数.}) \\ \text{であり, } f(x) \text{ の原始関数の一つを} \\ F(x) \text{ とすると} \\ \int_{\alpha}^{\beta} f(x) dx &= [F(x)]_{\alpha}^{\beta} \\ &= F(\beta) - F(\alpha). \end{aligned}$$